

復興防災公園（仮称）

基本計画

令和2年3月

岡山県倉敷市

1 計画の背景・策定の目的

◆計画の背景

平成30年7月豪雨災害により甚大な被害が生じた真備地区の復興に向けて、安全・安心なまちづくりを進めるとともに、将来を見据え、より良い地域づくりを進めていく必要があると考えています。

このため、「真備地区復興計画」に掲げるみんなで安心して暮らせる災害に強い都市基盤づくりに向けた「防災拠点の整備」、豊かな自然と歴史・文化の魅力の発信に向けた「川を感じ楽しめる空間の整備」等に取り組み、地域の新たな魅力や活力、賑わいの創出等、地域の更なる発展に向けて、本公園を整備するものです。

◆計画策定の目的

本計画は、小田川沿いに災害時の防災拠点や一時避難場所となり、平常時には防災教育の場、住民が川を感じ楽しめる場、真備の魅力を発信できる場等としても活用できる復興防災公園（仮称）を整備するため、整備に向けた基本方針、ゾーニング、維持管理の方針等を示した基本計画を策定するものです。

◆検討の流れ

本計画を策定するにあたり開催した「真備地区の復興に向けたワークショップ」及び「パブリックコメント」をはじめ、「真備地区復興懇談会」や「真備地区復興計画推進委員会」等で頂いた、多くの住民の皆様等のご意見やご提案を踏まえ、以下のように課題を整理し、整備に向けた基本方針等を定めました。

<課題>

地域の防災力の向上	浸水時に対応できる、現地での救援活動の拠点が必要
	身近な場所に、車でも避難できる一時避難場所が必要
	日頃から、川を感じ楽しみ意識することで、防災意識の向上につなげる
	災害に備えて、避難訓練や防災教育等を行い、地域の防災力を高める
地域の魅力の向上	住民の憩いの場となる広場や、多様な世代が楽しめる場所
	身近にスポーツやレクリエーションを楽しめる場所
	地域住民や市内外からの来訪者が交流し、真備の魅力などを発信できる場所



整備に向けた基本方針等

2 整備予定地

復興防災公園（仮称）の整備予定地は、以下の観点から選定します。

- ・ 真備地区の各地区から利用しやすい場所にある
- ・ 小田川河川敷を含め、必要な一定規模以上の面積が確保できる
- ・ 市内外から訪れやすいよう車や井原鉄道でのアクセス性が良好
- ・ 倉敷市都市計画マスタープランに位置付けられた真備地区の地区拠点（吉備真備駅周辺）に隣接する

上記を総合的に勘案した結果、小田川沿いの、下図に示す場所で整備の検討を進めます。



■ 公園名称

復興防災公園（仮称）

※正式な名称は今後決定する予定

■ 公園面積：約 4.5ha

＜内 訳＞

- 嵩上げ地：約 1.2 ha
- 緩斜面地等：約 1.6 ha
- 河川敷公園：約 1.7 ha
(堤防道路は除く)

※面積は今後変更になる場合があります



写真：国土交通省提供

3 整備に向けた基本方針

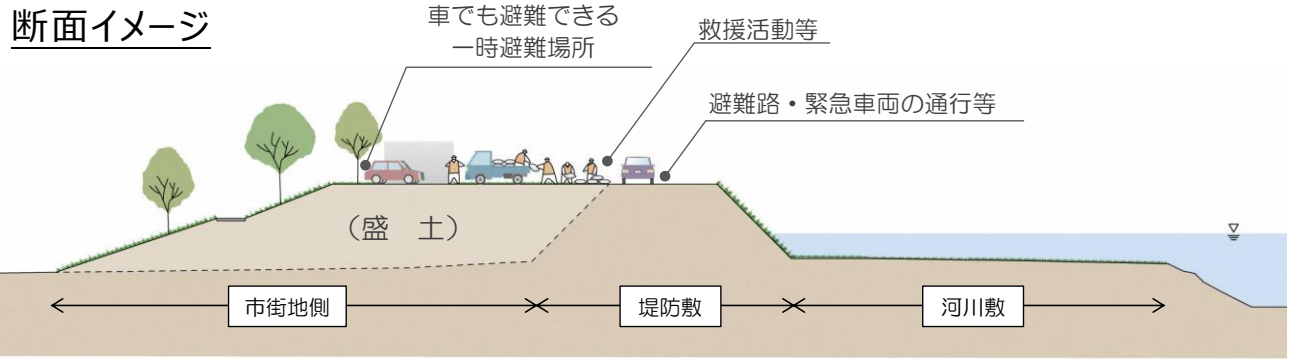
災害時

- ・災害時の水防活動に必要な緊急用資材等を備蓄し、救援活動や復旧等を迅速に行える「防災拠点」とします
- ・災害時に指定された避難所に避難することが困難な場合、危険から緊急的に逃れるための場所として、車での避難も可能となる災害時の「一時避難場所」とします
- ・整備にあたっては、小田川等の河道掘削土を有効に活用します

ゾーニング



断面イメージ



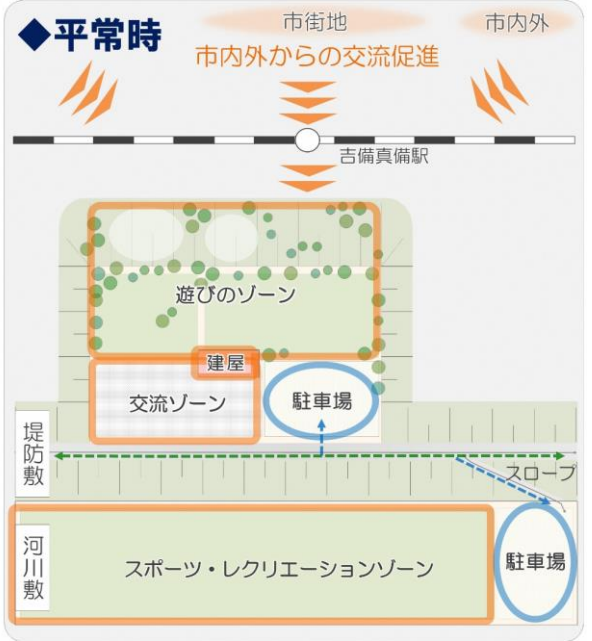
災害時	整備に向けた基本方針	主な対象エリア
	市街地側には、堤防道路と同程度の高さまで盛土して、水防活動や救援活動が迅速に行えるよう「防災拠点」を整備します	救援活動ゾーン 交流ゾーン 建屋
	災害時の活動拠点、水防活動に必要な緊急用資材等を備蓄する防災倉庫を整備します	
	災害時に指定された避難所に避難することが困難な場合、車での避難も可能となる「一時避難場所」として、駐車場やオープンスペースを設けます	一時避難ゾーン 遊びのゾーン※1 駐車場

※1：遊びのゾーンのうち、一時避難ゾーンとして利用するエリアは、嵩上げた多目的広場・芝生広場とします

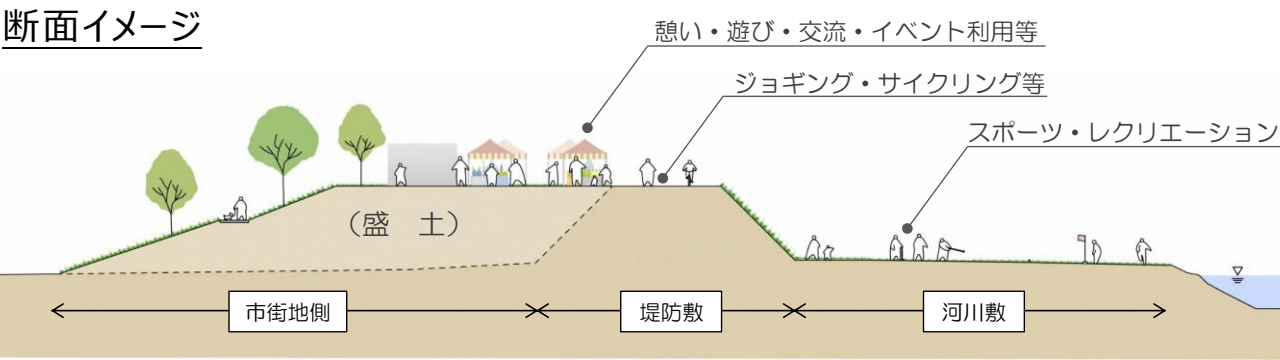
平常時

- ・「川を活かした防災教育の場」、「住民の憩いの場」、「子どもから大人まで多様な世代が楽しめる場」、「真備地区の住民だけでなく市内外からの来訪者が交流できる場」、「真備の魅力を発信する場」等として活用します
- ・日頃から住民が川と積極的に関わることで、「防災に対する意識の向上」を図ります
- ・小田川河川敷等の魅力ある水辺空間を活用し、「スポーツやレクリエーション等、川を感じ楽しめる空間」となるよう、川を活かしたまちづくりを進めます

ゾーニング



断面イメージ



平常時	整備に向けた基本方針	主な対象エリア
	防災学習等、防災意識を高める場、真備の魅力を発信する場として建屋を活用します	遊びのゾーン 交流ゾーン 建屋
	多様な世代が楽しめる芝生広場や多目的な利用が可能な広場を整備します	
	地域住民の憩いの場として、緩やかな斜面地や起伏のある地形の中に散策路や遊具広場等を整備します	
	河川敷には、スポーツやレクリエーション等が行える広場を整備します	スポーツ・レクリエーションゾーン

4 基本計画図

◆災害時の利用イメージ

救援活動ゾーン

■ 消防等の現地本部、緊急車両の駐車、ヘリポート、防災倉庫、救援活動の拠点となる広場、緊急時の一時避難場所等
＜活動イメージ＞



救援活動/消防等の現地本部



緊急車両の駐車



ヘリポート



緊急用資材の備蓄



一時避難ゾーン

■ 車で避難できる一時避難場所
＜活動イメージ＞



車による避難



広場を利用したテント設営

※本図面はイメージ図であり、今後の設計・検討等により変更する可能性があります

◆平常時の利用イメージ

遊具広場

- 緩斜面の中に散策路や遊具広場を配置した遊べる広場
＜活動イメージ＞
- ・子どもを見守りながら親子連れが遊べる/多様な世代が楽しめる



多目的広場

- アウトドア活動等、多目的に利用できる広場
＜活動イメージ＞
- ・ピクニックやお花見等



交流広場・建屋

- 交流・賑わいを創出する広場・建屋、トイレ
＜活動イメージ＞
- ・防災学習等のセミナー/イベントの開催



芝生広場

- 誰もが日常的に遊び・楽しむことができる芝生広場
＜活動イメージ＞
- ・みんなが集えるフリースペース/ボール遊び/水遊び



0 50 100m



スポーツ・レクリエーション広場

- 多様な世代が交流しスポーツやレクリエーションを楽しめる広場
＜活動イメージ＞
- ・みんなが集えるフリースペース/グラウンドゴルフ・フットサル/スケートボード等



※本図面はイメージ図であり、今後の設計・検討等により変更する可能性があります

5 維持管理の方針

草刈りや清掃等、日常の維持管理については、行政と地域住民等が協働し、継続的な維持管理ができる仕組みを構築します。



<維持管理の取組例>

・草刈り、清掃 等

■小田川河川敷樹林化防止踏みつけウォーク
（箭田まちづくり推進協議会主催）



写真：国土交通省提供

6 スケジュール

本計画のスケジュールは、以下を予定しています。

これまでの検討	真備地区の復興に向けたワークショップ（第1回）	令和元年 8月 31日
	真備地区の復興に向けたワークショップ（第2回）	令和元年 10月 5日
	令和元年度真備地区復興懇談会	令和元年 10月 26日・27日
	真備地区復興計画推進委員会	令和元年 11月 11日
	真備地区の復興に向けたワークショップ（第3回）	令和元年 11月 24日
	パブリックコメント実施	令和2年 2月 19日～3月 10日
↓		
基本計画策定		令和2年 3月 31日
↓		
今後の流れ	具体的な施設の検討	令和2年度～
	調査・測量設計	令和2年度～
	工事	未定（調整中）
	完成予定	令和5年度

※実施にあたっては、引き続き、住民の皆様のご意見を伺うとともに、関係機関と調整を行いながら進めます

※今後のスケジュールについては、小田川の堤防強化・拡幅工事等との調整が必要になります